



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.26

2012年 9月号

公益財団法人
School Aid Japan
〒144-0043
東京都大田区羽田 1-1-3
TEL: 03-5737-2773
FAX: 03-5737-2793
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

喜怒哀楽

農場で作業をしていると周囲の景色が次々に変わっていきます。つい先日田植えをし、緑で覆われたと思ったら、稲刈りの時期を迎え金色に変わります。このごろはあっという間に時間が過ぎていきます。日本では夜が長く感じられる季節となりましたが皆様はどのようにお過ごしですか。

さて、9月に起こった出来事をお伝えしようと思います。9月は良いこと、困ったこと、うれしいことなど考えさせられることがたくさんありました。

8月下旬から9月上旬まで孤児院の中学生以上の子どもたちが男の子と女の子のグループに分かれそれぞれ1週間ずつ農業研修を行いました。一緒に作業を行い、ご飯を食べ、同じ屋根の下で寝る。そんな2週間です。

新しい農場スタッフの上井君も語学研修を終え農場の勤務になり始めての農場の仕事が子どもたちとの作業となりました。

作業は、雨で崩れてしまった土手の修復。水田の周囲や、できたばかりの用水路の周囲に雑草を移植し畑の土が流れ出さないようにすること。スコップやクワを使った水田の整地、そしてレモングラスの定植と株周りの除草とどれをとっても地道な作業ばかりでした。

男の子たちは力仕事ばかりでしたが、暑い中一生懸命働いてくれました。男の子だけの食事の用意は心配でしたが、孤児院に来る前の生活のときや孤児院でもお手伝いをしていることから上手に作ってくれました。おいしかったです。

女の子たちもよく働いてくれました。長い時間同じ作業をしてもらうことが多かったのですが、根気よく続けてくれました。手を動かしながらおしゃべりもたくさんします。

一緒に生活をしていて一番驚いたのはたくさんご飯を食べることです。作業で体を動かしたこともあるのでしょうか。しかし、付き添っていただいた保母さんもビックリしているくらいでした。

おかげさまで作業は私たちが予定していたよりもずっと進みました。時には我慢をしながら、時には達成感を一緒に味わったりと、農場での作業や生活は、私たち農場スタッフにとっても楽しい時間でした。

この農業実習の間にもう1つ出来事がありました。それは農場の外でトラックがぬかるみにはまってしまい二進も三進も行かなくなってしまったことです。場所は農場から20分も離れた田園地帯で、近くには民家さえ見えません。雨季ですのであちこち水溜りだらけです。そんな場所で立ち往生することになってしまいました。当初トラクターで引っ張れば簡単に脱出できると踏んでいたのですが、いくら引っ張っても状況は悪くなるばかりです。どこもかしこも雨の影響で地面が緩んでいるのですから当然です。いろいろ試しましたが、結局その日は日が暮れてしまいあきらめまし



笑顔で担いでいますが、袋には40~50kgの砂が詰まっています。

た。次の日、どうしようもなくなった私たちは下宿させていただいている大家さんに相談をしました。そしてその数時間後いろいろな道具とたくさんの人を連れて助けに来てくれたのです。

一時は、このままだと乾季になるまで待たなければならないのではないかと本当に悩みましたが、どうにか無事に脱出することができました。

「助けて！」とお願いするとニコニコしながら「大丈夫。」といってくれた大家さん、大家さんの呼びかけで集まってきてくれた近所のおじさんたち、すぐに手伝いに駆けつけてくれたチャンダー君のお兄さんとお父さん、「まだご飯食べていないでしょ」といつも心配してくれていた管理人さん。多くの人にたくさん迷惑をかけてしまいました。カンボジアに来て 2 年半が過ぎましたが、とてもうれしい日でもありました。

9月中旬。今期 1 作目の稲刈りを行いました。今年は昨年よりも広い面積に田植えをしたので、収穫の際にも高校生以上の孤児院の子どもたちにも来てもらい一緒に収穫をすることになりました。

以前から孤児院を訪れる度に「私の植えた稲はどう？」と訪ねてきてくれていたこともあり一緒に収穫をすることができたことは、よい機会だったと思います。

さて、昨年と同じ時期の収穫量は 10 アール当たり 176kg でした。それが今回の作付けでは 10 アール当たり 206kg にすることができました。カンボジアでは 10 アール当たり 200kg ほどが収穫量の平均ですのでようやくそれに追いついたのです。

しかしここで満足しているわけにはいきません。今期の水稻栽培は「雨季の間に 2 作栽培する」を目標にしているからです。収穫が終わった今は 2 作目の準備として水田を耕す作業をしています。この 2 作目の栽培で大事なことは、「いかに早く田植えの準備ができるか」ということです。それは 12 月には乾季となってしまうからです。

雨季に水田を耕しているので場所によってはぬかるむところもあるのですが、日本から贈っていただいた耕耘機がフル稼働で活躍しています。稲の切り株が残っていることから数回にわたって耕しているのですが、耕耘機が耕してくれたその後を自分の足で踏み、足から伝わる水田の土の状態を確かめながら作業をしています。

こうして 2 作できるのは、用水路を作っていただいたおかげです。この時期でも水田が冠水してしまうことがなくなりました。そして耕耘機があるおかげですぐさま次の準備ができるのです。水田の土も鶏糞やモミガラを鋤き込んできたおかげで良くなってきています。このようなことからこの 2 作目の水稻は必ず成功させなければなりません。そしてもっと収穫量が上がるようにし、私たちの作ったお米で孤児院の子どもたちがおなかいっぱい食べることができるまでにすることがこの農場の目的でもあります。

1 月には収穫を迎えます。そのときにはたくさん収穫できたことをご報告したいと思っています。



ぬかるみに沈んでしまった前輪を持ち上げているところです。

編集後記

田舎の方では未だに泥棒や強盗が出るそうです。トラックがすぐには抜け出せないとわかった日の夜、管理人さんに車のバッテリーは盗まれるかもしれないと忠告されたため、地元のお兄さんと真っ暗な中再びトラックのもとへ。行ってみると周囲に明かりは全くなく、聞こえるのはカエルの鳴き声ばかりでした。普段はのどかなところなのですが、ずっとトラックのことが気にかかっていたこともあってかカンボジアに来て初めて「怖い」と感じました。幸いバッテリーも盗まれることはなく、事なきを得て一安心しました。

飯島